

サンゴ再生願い 絵とメッセージ

東京の3小が苗床に

【東京】オニヒトデや白化現象などで被害を受けた沖繩のサンゴ再生に取り組む「チーム美らサンゴ」で、大田区立の3小学校の児童たちが、サンゴの苗床になるプレートに再生を願うメッセージを書き込む活動に参加した。

4、5、6年生が取り組んだ入新井第2小では19日午前、「チーム美らサンゴ」を担当する全日空のCSR推進部の魚田夏紀さんがサンゴの生態や自然環境の中での重要性、危機的な沖繩

のサンゴ礁の状況を映像やクイズ形式で説明。活動開始から7年目になった再生プロジェクトの内容や実績を紹介した。

児童は縦2枚、横5枚の石灰岩に海の色を表す青や鮮やかなサンゴなどの絵を表現し、「美ら海を守ろう」「サンゴを育てよう」などのメッセージを書いた。

児童たちは「海の自然を守る活動に参加できてうれしい」「大人になったときに、次の世代に美しいサンゴを受け継ぐために頑張りたい」などと述べた。

沖繩でのダイビング経験がある嶋田英樹校長は「沖繩の海は世界最高。沖繩の海や環境を守るため、自分ができることを考えるきっかけにしてほしい」と話した。ほかに、同区立池上小と萩中小が活動に参加した。23日に恩納村で開催される「チーム美らサンゴ祭り」で、同村内の小学生がプレートにサンゴを付け、サンゴ苗を作る。

チーム美らサンゴは、サンゴ再生のため、沖繩タイムス社や全日空など県内外の13社が参加している。



サンゴ再生でメッセージを書き込んだ大田区立入新井小の6年生。19日、東京都大田区